

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																				
中国デザイン専門学校		昭和52年3月18日		田口 一子		〒700-0842 岡山県岡山市北区船頭町12番地 (電話) 086-225-0791																				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																				
学校法人 第一平田学園		昭和52年3月18日		平田 真一		〒700-0842 岡山県岡山市北区船頭町12番地 (電話) 086-225-0791																				
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																			
文化・教養	造形専門課程	インテリア・プロダクト科				平成23年文部科学省 告示第166号																				
学科の目的	本校のインテリア・プロダクト科は、教育基本法及び学校教育法の趣旨にのっとり、インテリア(建築関連)・プロダクト(工業製品関連)に関する専門的学術を教授し、その技術を修得させると共に、教養を高め、広く社会に貢献できる人物の育成を目的とし、あわせて地方文化の向上に寄与しようとするものである。また、インテリア(建築関連)・プロダクト(工業製品関連)分野の職業に就く為に必要な実践的かつ専門的な能力を、本校独自の産学協同事業やインターンシップ等を企業等の連携を通じ育成することを目的とする。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習		実習		実験	実技																
	3年 昼間		105単位以上	15単位		142単位		39単位		0単位	0単位															
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																
90人		32人		0人		3人		12人		15人																
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌年3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年度初めに全学生に配布する学生便覧レッスンのアウトラインに、授業科目ごとに明記。評価方法に関しては、「筆記試験及び作品提出の有無」。基準に関しては「具体的な評価基準」を科目ごとにそれぞれ明記。																			
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月20日～8月31日 ■冬季:12月21日～翌年1月7日 ■学年末:3月31日				卒業・進級条件		進級・卒業には年間35単位以上及び当該年次における全必修科目の取得を要する。また、卒業には総計105単位以上の取得を要する。																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任もしくは学科担当者からの定期的な連絡と情報把握。学校行事等への参加を促す。保護者への定期的な連絡。希望があれば個別学修指導。				課外活動		■課外活動の種類 ボランティア(清掃活動、献血協力、マラソン等) 専体連への参加 学友会組織 ■サークル活動:※ 同好会発足に必要な条件を満たしていればサークル活動をおこなえる。 有																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 企業:(株)イルカ/(株)エイコー堂/(株)インデッ テトテ/家具工房ムクの樹/(株)シファカ/ (株)アクシス/佐渡基宏建築アトリエ/シマダ(有) 業界: 建築、家具、雑貨、宝飾業界 ■就職指導内容 1年前期/修学基礎 1年後期/キャリアデザイン・企業見学 2年前期/就職ガイダンス①・ビジネスマナー・インターンシップ・ビジネスアプリケーション 2年後期/適職テスト・就職ガイダンス②・コミュニケーションプロジェクト(企業交流会) 3年前期/就職ガイダンス③・CtoC企業ガイダンス(校内合同企業説明会)・就職ガイダンス④ ■卒業生数 : 9 人 ■就職希望者数 : 9 人 ■就職者数 : 9 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日 時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3 ■国家資格・検定/その他・民間検定等(平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩士検定 3級</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>建築CAD検定2級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>建築CAD検定3級</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 岡山県JIA卒業設計コンクール 第4位		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	色彩士検定 3級	③	11	8	ビジネス能力検定	③	13	8	建築CAD検定2級	③	1	0	建築CAD検定3級	③	4	4
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
色彩士検定 3級	③	11	8																							
ビジネス能力検定	③	13	8																							
建築CAD検定2級	③	1	0																							
建築CAD検定3級	③	4	4																							
中途退学	■中途退学者 3 名 ■中退率 9.4 % 平成28年4月1日時点において、在学者32名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者29名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 「学校生活・学業不適應」「進路変更」「経済的事情」 ■中退防止・中退者支援のための取組																									

の現状	<ul style="list-style-type: none"> 学生出身校を訪問した際には情報交換を行う等、教員によるきめ細かな指導の実施。 入学後4月中に担任がクラス学生全員と面談を行う。 年4回担任との定期面談。 3日連続授業欠席の学生に対しては3日目には必ず担任が連絡をする。 退学者の徴候とその対策指導チェックリスト(面談、指導記録)を作成。 月に1回教員ミーティングを開催し情報共有と指導支援について協議する。 保護者との連携強化。
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 国による授業料減免制度、特待生制度(第一平田学園特別奨励金)授業料の減免措置、入学金の減免措置、入学金・授業料以外の減免措置</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	URL: http://www.cdc-de.ac.jp

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

職業実践専門課程の基本方針である、「高等学校における教育の基礎の上に、深く専門的な程度において専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目を開設しなければならない。」を基にしたインテリア・プロダクト分野の教育を目的としている。また、この目的に応じて、企業等の要請を十分に活かしつつ職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するために、インテリア・プロダクト分野企業等の密接な連携により、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組んでいる。また、学生の就職先の業界における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを把握するため、教育編成委員会等の委員の所属先以外の企業等へのヒアリングやアンケート等を別途実施している。

本校独自の産学協同人材育成支援システム「CtoC System」

企業や地域との交流によるさまざまな実践体験は、学生たちの武器と考えます。

CHUGOKU DESIGN COLLEGE: 中国デザイン専門学校、COMPANY: 企業、COMMUNITY: 地域

「CtoC System」とは、本校と企業や地域を結ぶ情報ネットワークのことです。

業界の動向や人材育成についての最新情報を共有するためのプラットフォームとして、企業紹介やインターシップなどさまざまな活動を行っています。

企業紹介／求人依頼「Young DAM」

本校卒業生や企業間の求人・求職情報、ビジネスに関する提案などの提供とコーディネートを目的としています。即戦力になる人材や、短期間の技術アルバイト、パートの紹介にも対応。各関係者からの問い合わせは年々増えています。

企業紹介／制作依頼「DETCH(デッチ)」

企業や地域からの仕事の依頼を受け、在校生が中心になって活動する新インターンシップ制度です。

イベントの企画、デザイン制作、ショーへの協力など、学生の自由で豊かな発想を活かした取り組みが、高く評価されています。

企業紹介／交流イベント「CtoC Communication Project」

年に一度大々的に開催。CtoCの総決算ともいえる学生と教職員、企業間の交流イベント。

「Young DAM」「DETCH」を通じて培った企業との連携をより確かなものにするために、年に1回開催する交流

イベント。本校と企業等、あるいは企業同士の情報交換や交流の場となっています。

企業紹介／合同説明会「CtoC就職ガイダンス」

岡山県下のデザイン／ファッション分野の企業の方々を目の前にする、就職面談同様のガイダンス。コミュニケーションを図ることにより就職への意識向上、マナーやプレゼン技術を実践的に試す機会として3年生を対象に5月に実施しています。

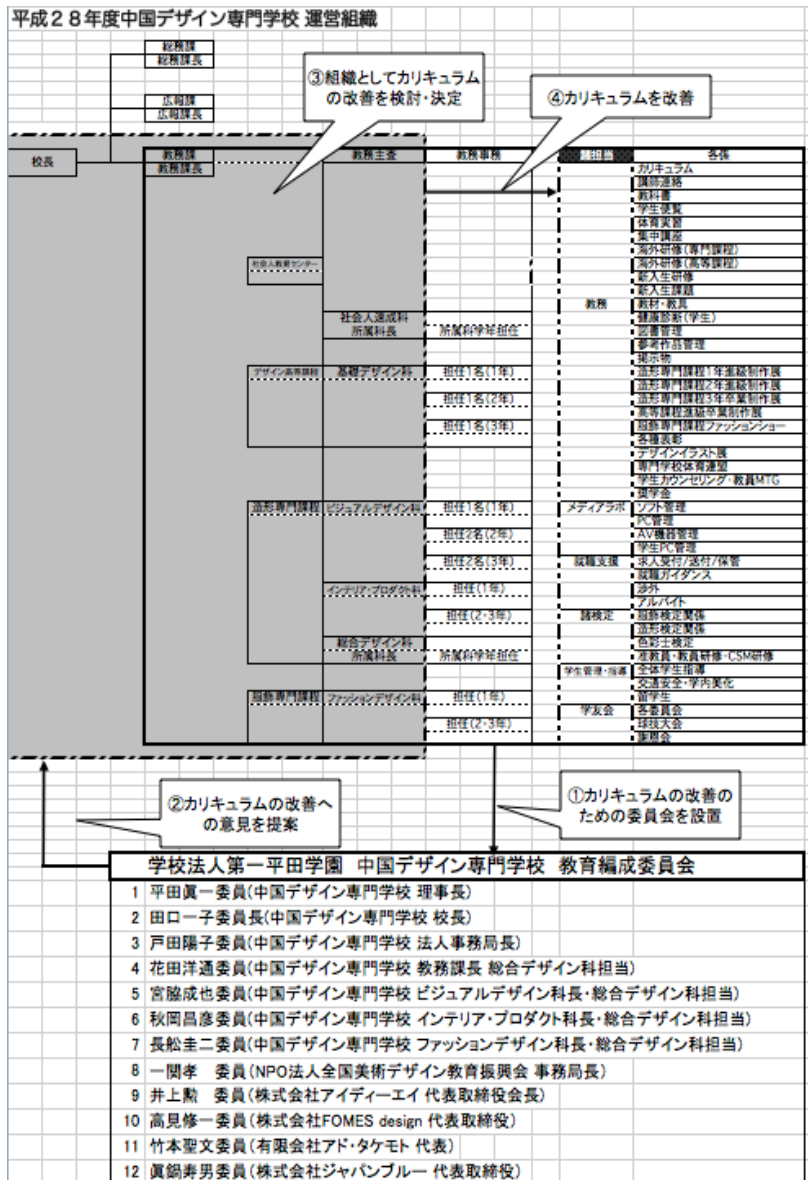
企業紹介／就業体験「インターンシップ制度」

数多くの企業の方々にご協力いただき、社会に出て仕事を体験するインターンシップ制度を充実させています。

ファッションデザイン科では2年次で2回、ビジュアルデザイン科インテリアプロダクト科では2年次に1回、

総合デザイン科では2年次に1回と4年次に2回インターンシップを実施し、自らの目標の仕事に触れる機会を設けています。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年3月20日現在

名前	所属	任期	種別
一関 孝	NPO法人全国美術デザイン教育振興会 事務局長	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	①
井上 勲	株式会社アイディーエイ 代表取締役会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	③
高見 修一	株式会社FOMES design 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	③
竹本 聖文	有限会社アド・タケモト 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	③
眞鍋 寿男	株式会社ジャパングループ 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回以上の開催をしている。(開催時期:毎年8月上旬、1月中旬)

(開催日時)

第1回 平成28年8月5日 16:00～17:30 会場:本校会議室

第2回 平成29年1月18日 16:00～17:30 会場:本校会議室

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育編成委員の高見氏、竹本氏から産学協同の取り組みを今後活発にしていくようにご意見をいただいた。プロダクト分野では、地域で行なわれるクラフトイベントなどに、学校の授業として関わるように、計画を進めたい。建築・インテリア分野についても、図面描写等の基本技術や、知識を身につけているだけでなく、イラストレーターソフトを使ったビジュアル表現力や、電話等でクライアントと話す、コミュニケーション力も必要と言う意見をいただいた。今後はゼミの授業内で学外と接触する機会を増やし、社会人としての総合力も強化したいと意見交換を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と本校の連携によるインターンシップや本校独自の企業等からの業務委託「DETC(デッチ)」を通じ、本校の学生にデザイン・ファッション分野企業の現場及び業務を経験させ、学内では得ることが困難な実践的で幅広い見識と実社会への適応性を身につけさせることを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

本校2年次夏期休暇中にデザイン・ファッション分野企業等におけるインターンシップ(1週間程度)を実施。また、本校独自の企業等からの業務委託「DETC(デッチ)」では次に定める項目を業務として実施している。

デザイン・ファッション分野企業等からの業務委託形式。

(1)コンペティション形式業務。

(2)現場実習形式業務。

(3)依頼制作形式業務。

(4)その他、協議のうえ別途合意した業務。

それぞれ学科内で組織的にカリキュラムや授業に落とし込み、担当教員は企業等のやりとり等の窓口は行うが学生の自主性を重んじ打合せや訪問等学生単身で行動させる。

上記すべての学修成果として企業等に終了後評価票を記入いただき、その反省改善点をまとめ学生へのフィードバック及び「教育の質の確保・向上」に向けて参考としている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	夏期期間の7月～8月にかけて、例年インターンシップ実習に取り組む。実習期間は5日～10日前後を設定。企業評価を受ける事を目的とする。	佐渡基宏建築アトリエ/ケイエムアーキブ ロダクツ/Free style/小見山木工/横田製靴/など

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校は関連分野における先進的な知識・技能等を修得するために「教職員研修規定」を定め、教職員の研修等に組織的・継続的に取り組んでいる。(専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修と、授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するための研修)年度始めに教職員全員が研修年間計画を作成提出する他、必要により所属長の命によって研修を指示する場合も研修費用は学校がバックアップし全体のレベルアップに努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

第27回ワンデーエクササイズ 説明会及び懇談会 参加者: インテリアプロダクト科中山裕志
平成28年6月27日 主催: 岡山建築設計クラブ主催

平成28年度インテリア・プロダクト科島根研修 参加者: インテリアプロダクト科中山裕志 秋岡昌彦
平成28年8月9日～10日 研修先: 「足立美術館見学」「萩山高原センター見学」「島根デザイン専門学校視察」

建築家・建築史家「藤森照信氏 講演会」聴講 参加者: インテリアプロダクト科中山裕志
平成28年9月9日 主催: (公社)日本建築家協会 中国支部岡山地域会 大光電気(株)中四国支店

平成28年度インテリア・プロダクト科東京研修 参加者: インテリアプロダクト科中山裕志 秋岡昌彦 小松原康一
平成28年11月25日～29日 研修先: 「デザフェス視察」「都内建築関係オブジェ等見学」「国立西洋美術館見学」

岡山の専門学校による高校・出前講座 参加者: インテリアプロダクト科中山裕志
主催: 一般社団法人岡山県専修学校各種学校振興会
平成28年10月31日 岡山県立鳥城高等学校昼間部・夜間部 対象: 全学年計14名

平成28年度文部科学省委託事業「環境エネルギー分野の社会人学び直し教育プログラム開発」住環境エネルギー講座受講
参加者: インテリアプロダクト科中山裕志
平成29年11月19日 主催: 学校法人小山学園

② 指導力の修得・向上のための研修等

① 新採用・2・3年目教員の研修会(新人対象の教職員資質向上講座)参加者: 教務 永田、中条・ビジュアルデザイン科 村木、松居、小林・総務 大屋 教務課長ビジュアルデザイン科花田 広報課長ファッションデザイン科長船 総務課長戸田 理事長 校長
第1回平成28年8月3日 テーマ「専修学校について、本校について」
第2回平成28年8月17日 テーマ「教員のあり方、学校職員のあり方について、入試について」
第3回平成28年8月31日 テーマ「研修会まとめと質疑応答」

② 全体研修会(教職員意識の徹底、外部講師を招いてのテーマ研修)各1時間30分程度
平成28年4月15日 テーマ「選挙について特別講演会」
平成28年10月9日～11月27日 テーマ「岡山芸術交流」
平成28年10月14日 テーマ「スマートフォン・インターネットトラブル講話」
平成29年3月18日 テーマ「人気イラストレーター有満弘氏によるライブペイントセミナー」

③ 職業教育・キャリア教育に携わる全ての教職員のための「キャリア・サポーター養成講座(CSM講座)」
平成28年7月25日～27日 参加者: ビジュアルデザイン科小林明日香
主催: 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 実施: 岡山県専修学校教員研修委員会

④ 平成28年度専修学校教員教職課程研修
参加者: インテリアプロダクト科小松原・中山、ビジュアルデザイン科宮脇・松居・村木・花田・小林
平成28年7月20日～22日B類/平成28年7月25日～27日A類
主催: 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 実施: 岡山県専修学校教員研修委員会

⑤ 平成28年度全専各連中国地区協議会総会及び研修会 平成28年7月15日
参加者: ファッションデザイン科長船、ビジュアルデザイン科宮脇/花田、インテリア・プロダクト科秋岡、総務課戸田/岸本、広報課平田、理事長、校長
主催: 全国専修学校学校各種学校総連合会中国地区協議会

⑥ 企業紹介／交流イベント「CtoC Communication Project」

※年に一度開催。CtoCの総決算ともいえる学生と教職員、企業間の交流イベント。「Young DAM」「DETCHE」を通じて培った企業との連携をより確かなものにするために、年に1回開催する交流イベント。本校と企業等、あるいは企業同士の情報交換や交流の場。
平成28年度第16回「CtoC Communication Project」平成29年3月18日 テーマ「デニム・ジーンズ産業の今」

⑦ 「CLUB CtoC」※2ヶ月に一度開催。本校独自の企業・教職員との勉強会及び異業種交流会 各2時間程度

平成28年度第1回 平成28年6月24日 テーマ「企業×学生コラボレーション事業報告」
平成28年度第2回 平成28年8月6日 テーマ「真夏の花火スペシャル」
平成28年度第3回 平成28年12月16日 テーマ「話題の有るものを、確かめよう」

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

「教育の質の確保・向上を目的とした」教職員研修会と教員ミーティングを毎月行っている。
また、2ヶ月に一度開催している本校独自の企業・教職員との勉強会及び異業種交流会「CLUB CtoC」を15年以上行っている。
それぞれの研修会勉強会内にて企業等から講師を招いて教職員に対し関連分野における勉強会や学生指導、一般実務に関する知識、技術、技能などについて校内で組織的・継続的に行っている。また定期的に教職員研修会にて自主研修報告会を行い、教職員情報共有に努めている。

年間教員研修計画

- 専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修
- 授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するための研修
- その他

自主研修(各自がテーマを決めて年度内の研修を自主的に行う)

- ◎ 分野別企業訪問(デザイン・ファッション分野で注目の企業への訪問)
- ◎ 作品企画と自主作品制作及び発表
- ◎ 専門分野のイベントや講演会に参加し、専門知識・技術や最新情報の収集
- ◎ 専門家との交流・意見交換・情報提供の企画と実施
- ◎ 外部から依頼のあったデザイン・ファッション関連イベントにおける企画・運営及びシンポジウムパネリスト参加

②指導力の修得・向上のための研修等

① 新採用・3年目教員の学内研修会(新人対象の教職員資質向上講座:7月～8月までの計3回)

※内容ー1回目「専修学校について、本校について」理事長・校長、2回目「教員のあり方、学校職員のあり方について」校長・総務課長・教務課長・広報課長、2回目終了後対象者約1000字程度のレポート作成「テーマ/本校教職員として学校へどう貢献すべきか」、3回目「レポート発表後研修会まとめと質疑応答」校長・総務課長・教務課長・広報課長

② 全体研修会(教職員意識の徹底、外部講師を招いてのテーマ研修:年2回程度)

③ 職業教育・キャリア教育に携わる全ての教職員のための「キャリア・サポーター養成講座(CSM講座)」※主催:一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 実施:岡山県専修学校教員研修委員会 毎年7月下旬3日間開催

④ 専修学校教員教職課程研修A類(毎年7月下旬開催)、B類(毎年7月中旬開催)※主催:岡山県専修学校教員研修委員会

⑤ 全専各連中国地区協議会総会及び研修会※主催:一般財団法人職業教育・キャリア教育財団

⑥ 文部科学省補助事業 専修学校教育内容等改善研究協力校事業「中堅教員研修」科目:【教員のキャリアデザインワークショップ】【新任指導力】【学校の経営】【体系的カリキュラム・シラバス作成】【教育・指導力向上】【学級経営・学生対応】【リスクマネジメント】※主催:一般財団法人職業教育・キャリア教育財団

⑦ 企業紹介/交流イベント「CtoC Communication Project」※年に一度開催。CtoCの総決算ともいえる学生と教職員、企業間の交流イベント。

「Young DAM」「DETC」を通じて培った企業との連携をより確かなものにするために、年に1回開催する交流イベント。本校と企業等、あるいは企業同士の情報交換や交流の場。

⑧ 「CLUB CtoC」※2ヶ月に一度開催。本校独自の企業・教職員との勉強会及び異業種交流会

⑨ 指示研修(必要により所属長の命によって研修を指示する)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者とともに、各専攻分野企業等から委員が参画した学校関係者評価委員会を設置。特に、企業等との密接な連携による取り組みを重要と考え、学校評価を通じた組織的・継続的な教育活等の改善を基本方針と考えている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか 1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育人人材像などが、明確に定められているか 1-1-2 理念・目的・育人人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか 1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか 1-1-4 理念・目的・育人人材像は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか 1-2 学校の特色はなにか 1-2-5 学校の比類ない特色として挙げられるものがあるか 1-3 学校の将来構想を抱いているか 1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想をいっているか
(2) 学校運営	2-4 運営方針は定められているか 2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか 2-4-2 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか 2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか 2-5 事業計画は定められているか 2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか 2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか 2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-6-6 運営組織図はあるか 2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか 2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか 2-7-10 人事考課制度は整備されているか 2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか 2-7-12 賞金制度は整備されているか 2-7-13 採用制度は整備されているか 2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか 2-8 意思決定システムは確立されているか 2-8-15 意思決定システムは確立されているか 2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか 2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか 2-9-18 業務効率化を図るシステム化がなされているか

(3)教育活動	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、達成することが可能なレベルとして、明確に定められているか</p> <p>3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達する事が可能なレベルとして、明確に定められているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか</p> <p>3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか</p> <p>3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか</p> <p>3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか</p> <p>3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか</p> <p>3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業のシラバスが作成されているか</p> <p>3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-14-10 学生による授業評価を実施しているか</p> <p>3-14-11 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか</p> <p>3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-15-12 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件(専門性・人間性・教授力・必要資格等)を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-15-13 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか</p> <p>3-15-14 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか</p> <p>3-15-15 教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-1</p> <p>3-15-16 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか</p> <p>3-15-17 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-15-18 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか</p> <p>3-15-19 非常勤講師間で適切に協業しているか</p> <p>3-15-20 非常勤講師の採用基準は明確か</p> <p>3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-16-21 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-16-22 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか</p> <p>3-17 資格取得の指導体制はあるか</p> <p>3-17-23 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか</p> <p>3-17-24 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか</p> <p>3-18 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-18-25 キャリア教育が行われているか</p> <p>3-18-26 キャリア教育の実効性は検証されているか</p>
(4)学修成果	<p>4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-19-1 学生の就職に関する目標を達成したか</p> <p>4-19-2 就職成果との推移に関する情報を明確に把握しているか</p> <p>4-20 資格取得に関する目標を達成したか</p> <p>4-20-3 資格取得に関する目標を達成したか</p> <p>4-20-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか</p> <p>4-21 退学率の低減に関する目標を達成したか</p> <p>4-21-5 退学率の低減に関する目標を達成したか</p> <p>4-21-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生は社会で活躍し、評価を得ているか</p> <p>4-22-7 卒業生は社会で活躍し、評価を得ているか</p> <p>4-22-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか</p> <p>4-22-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか</p> <p>4-22-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか</p>

<p>(5) 学生支援</p>	<p>5-23 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-23-1 学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-23-2 就職に関する説明会を実施しているか 5-23-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか 5-23-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか 5-24 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-24-5 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-24-6 学生相談室を開設しているか 5-24-7 学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか 5-24-8 留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか 5-25 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか 5-25-9 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか 5-25-10 奨学金制度が整備され、有効に機能しているか 5-25-11 学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか 5-26 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか 5-26-12 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか 5-26-13 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか 5-26-14 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか 5-27 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか 5-27-15 スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか 5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-28-16 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-29 保護者と適切に連携しているか 5-29-17 保護者と適切に連携しているか 5-30 卒業生への支援体制はあるか 5-30-18 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか 5-30-19 卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか</p>
<p>(6) 教育環境</p>	<p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか 6-31-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか 6-31-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか 6-31-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか 6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-32-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか 6-32-5 学外実習、インターンシップ、海外研修等について、その実績を把握し教育効果を確認しているか 6-33 防災に対する体制は整備されているか 6-33-6 防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか 6-33-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか 6-33-8 実習時等の事故防止の体制は十分か 6-33-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか 6-33-10 防災訓練を実施しているか</p>
<p>(7) 学生の受入れ募集</p>	<p>7-34 学生募集活動は適正に行われているか 7-34-1 学生募集活動は適正に行われているか 7-34-2 学校案内等は志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか 7-34-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか 7-34-4 募集定員を満了募集活動となっているか 7-35 就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果は、学生募集に貢献したか 7-35-5 就職実績、資格取得実績、卒業生の教育成果は、学生募集に貢献したか 7-35-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか 7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 7-36-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 7-36-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか 7-37 学納金は妥当なものとなっているか 7-37-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか 7-37-10 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか</p>

(8)財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-38-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-38-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか 8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-39-3 年度予算、中間計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか 8-39-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか 8-40 財務について会計監査が適正に行われているか 8-40-5 財務について会計監査が適正に行われているか 8-40-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか 8-41 財務情報公開の体制整備はできているか 8-41-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか 8-41-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか
(9)法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-42-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか 9-42-2 法令や専修学校設置基準の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか 9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 9-43-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 9-43-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか 9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-44-5 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか 9-44-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか 9-44-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか 9-45 自己点検・自己評価結果の公開はしているか 9-45-8 自己点検・自己評価結果は公開しているか 9-45-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか 9-45-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-46 教育資源を活かした社会貢献 10-46-1 教育資源を活かした社会貢献をしているか 10-47 ボランティア活動の支援 10-47-2 ボランティア活動の支援をしているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者者の評価結果や改善方策等のうち、特に企業等から参画した委員の意見については、学科の「カリキュラムや授業等の作成・見直し等」「産学官連携によるインターンシップ、実習等」「教職員の研修等」の教育活動やその他「教育理念・目的・育成人材像」「学生支援」等学校運営の改善等に活かせるよう考え取り組んでいる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年3月20日現在

名前	所属	任期	種別
井上 勲	株式会社アイディーエイ 代表取締役会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	企業等委員
高見 修一	株式会社FOMES design 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	企業等委員
竹本 聖文	有限会社アド・タケモト 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	企業等委員
眞鍋 寿男	株式会社ジャパングループ 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	企業等委員
丹生 恵子	中国デザイン専門学校 教育助成会 会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	PTA
藤若 典弘	有限会社ヴィジョンイメージファクトリー 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(◎ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <http://www.cdc-de.ac.jp/info/release/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の学生が、どのようなカリキュラムを通じて知識・技術・技能を修得しているのか、また、質の高い教育プログラムを提供するために、学校としてどのような工夫・改善に取り組んでいるか等を具体的な教育情報を分かりやすく公表し、本校の特色ある教育活動を積極的に発信している。さらに、本校の基本的な教育組織等に関する情報のほか、教育情報の積極的な公表を通じて、本校教育の質の確保・向上を図ることが重要と考えている。以上情報提供の基本方針として取り組んでいる。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●入学者に関する受入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数 ●カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時間数)、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画) ●進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ●学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ●資格取得、検定試験合格等の実績 ●卒業生数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ●教職員数(職名別) ●教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア教育への取組状況 ●実習・実技等の取組状況 ●就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ●学校行事への取組状況 ●課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) ●活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ●貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ●自己評価・学校関係者評価の結果 ●評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	<ul style="list-style-type: none"> ●学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(◎ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.cdc-de.ac.jp/info/release/>

授業科目等の概要

(造形専門課程インテリア・プロダクト科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			体育実習	夏期、冬期に分かれ、3日間の集中講座を行う。履修者はバドミントン、スキー、スノーボードから選択する。どの科目も基礎的なフォームから学び、初級、中級、上級コースで自分にあったレベルの技術を習得する。	1	30	1			○	○	○			
		○	夏期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	1前	60	2			○	○		○		
		○	冬期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	1後	30	1			○	○		○		
		○	SHR	学校生活における必要な連絡事項などをクラスごとに告知をする。	1	60	2			○	○		○		
		○	ライフデザイン①	クラスでの活動を通じて計画性、協調性を身に付けデザイナーとしての能力向上を目指す。	1前	30	1			○	○		○		

○		修学基礎	学校を知る…学生便覧や先生方のお話、先輩からのお話を聞き本校での生活や学習方法を学ぶ。●コミュニケーション能力の向上…テキスト「やる気の根っこ」を使ってグループワークをする●社会への興味…学外の講師を招いて講義を受けたり、お話を聞いたりする。外部に見学に行くこともある。●以上を学んだ上で卒業後の自分の将来像を考える。	1 前	15	1	○		○	○				
○		デザイン概論	テキスト「デザインの世界を目指す君へ」「日経デザイン」を使って講義をおこなう。その他制作プロセスを知るためのデザイン制作も行う。	1 前	15	1	○		○	○				
	○	ベーシックデザイン（立体）	図面、図法の基本を理解する。立体をイメージし、平面上で製図をし、立体に組み立て表現する。蛇腹折りでは上記プロセスに手作業をプラスし、ねばり強くデザインする姿勢を身につける。	1 前	30	2		○	○				○	
	○	ベーシックデザイン（デッサン）	鉛筆デッサンを中心に、指定されたモチーフを紙に描く。	1 前	30	2		○	○				○	
	○	ベーシックデザイン（色彩）	テキストを用いて各单元ごとにプリントを通じて知識を身につけていくとともに、一单元、一課題で理解を深めていく。	1 前	30	2		○	○				○	
	○	図法	インテリア/ファッション分野における立体図形の把握と表現は、最も重要な基礎能力である。この科目では、各種投影図法に関する講義と、製図道具として不可欠な三角スケールを使い、図面の作図演習を密接に結び付け、スケール感覚を修得する。フリーハンドスケッチや、図面の美的構成といった観点からも、作図という実践を通じて体得する。	1 前	45	3		○	○			○		
	○	素材加工①	加工方法の説明→デザイン・設計→制作→文章と口答でのプレゼンテーションを3度繰り返し行う。	1 前	45	3		○	○			○		

			○ 素材加工②	服飾雑貨制作を中心に縫製の基本的な技術を学ぶ。エプロン、バッグなどを共通課題として制作。布地の裁断、ミシン縫製、仕上げをおこなう。	1 前	45	3				○	○	○				
			○ 素材加工③	スタイロフォームやバルサ材などのさまざまな素材を使った模型制作の技術を身につけるための演習をおこなう。	1 前	45	3				○	○	○				
		○	色彩士検定	将来つくであらうデザイン業界の仕事の中でその必要性に応じ正確に「色彩」について理解し、提案できる能力を養う。	1 前	15	1				○	○	○				
			○ 英会話 I	まずは自分の事を説明できるようになるために基本的な情報（出身、血液型、星座）、興味のあることなどを表現し、名刺を作成、交換する。基礎的な会話をゲームなどを通して体験し、話す。	1 前	15	1				○	○					○
			○ PC入門	Adobe IllustratorとPhotoshopの基本操作の説明。テキストを少し使いながら、ベジェ曲線の使い方を中心にオブジェクトの作成・編集方法を学ぶ。課題制作では、配布のIllustratorドキュメントを制作する。Photoshopでは簡単な画像編集と、Illustratorへの画像のリンクの仕方を学ぶ。	1 前	15	1				○	○	○				
			○ ライフデザイン②	クラスでの活動を通じて計画性、協調性を身に付けデザイナーとしての能力向上を目指します。	1 後	30	1					○	○	○			
		○	進級制作 I	指定された段ボールを用いて、椅子を制作する。キーワード①椅子の置かれる環境②身体的な寸法との関係③美的感覚④材料の特性を活かす⑤大人が座っても耐えられる強度⑥効果的なプレゼンテーション…。成果物として①段ボール椅子（1脚）②プレゼンテーションボード（B2サイズ）	1 後	90	2					○	○	○			

		○	スペースデザイン入門	身近な場所を決定してその場所の寸法を測りそれを50分の1の図面とする。そしてその図の平面を利用して自分独自の場所を作ってみる。平面図・断面図・完成予想図を作成する。完成予想図にはその部屋にいる自分自身を入れて表現する。	1 後	30	2			○	○				○
		○	CAD入門	CADにて図面が描くことができるようになる。スケール感や寸法との比較ができるようになる。簡単な家具図面やインテリアの図面を描くことができるようになる。今後の自分たちの課題等にいかせるようになる。	1 後	30	2			○	○				○
		○	家具入門	家具を作る上で主要な素材となる木材の加工法の基礎を身につける。講義を交えて実際に手を動かして小物を作る事で素材や用具に対する理解を深める。	1 後	45	3			○	○				○
		○	雑貨入門	平面でアイデアを考えられる作品制作から徐々に立体でアイデアを考える作品制作をしていく。素材のあつかいと工具の使用を身につける。機能やしぐみを考え、各々の作品に適した寸法や構造、寸法を導き出せるようになる。	1 後	45	3			○	○				○
		○	セラミック入門	陶土での基礎的な成型方法・加飾方法を学ぶ。アイデアスケッチ、成形、焼成などの各過程を知ることで土が作品に変化していく様子がわかる。たまづくりで腕、ひもづくりでふたもの、たたらづくりで皿を作る。	1 後	45	3			○	○				○
		○	ジュエリー入門	切る・接合する・曲げる・延ばすなどの基本的な加工方法を一つの技術で一つの作品を制作しながら確実にマスターしていく。2年次、3年次にいくつかの技術を複合して作品制作する時に高品質なモノが作れるように徹底的に基礎を重視して授業を進める。※個人工具代・材料費・薬品etc≒2,500円程度必要。	1 後	45	3			○	○				○
		○	プレゼンテーション I	進級制作と連動して、作品イメージを伝える為のプレゼンボードをPCを使って制作する。	1 後	30	2			○	○				○

○		キャリアデザイン	仕事、職場のシュミレーションとして共同作業、グループワークをおこなう。	1 後	15	1	○			○	○								
		○ 夏期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	2 前	60	2				○	○							○	
		○ 冬期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	2 後	30	1				○	○							○	
○		インターンシップ	夏期期間の7月～8月にかけて、例年インターンシップ実習に取り組む。実習期間は5日～10日前後を設定。企業評価を受ける事を目的とする。	2 前	15	1	○				○							○	○
		○ SHR	学校生活における必要な連絡事項などをクラスごとに告知をする。	2	60	2				○	○							○	
		○ 校外特別講座	アジア最大のアートイベントと言われる「デザインフェスタ vol. 44」に参加し、全国のクリエイターと触れ合いながら接客方法等販売について経験します。	2 後	30	1				○		○	○						
○		フリーゼミ (7回)	広告、出版、アート、アニメ、マンガ、プロダクト、インテリアなどの業界について、ワークショップなども交えながら講義を受ける。	2 前	15	1	○				○							○	

○		コンセプトメイキングⅠ	演習からコンセプトの作成方法を理解する。また、進級制作テーマを基にコンセプトメイキングを行い、制作内容の企画をたてる。なお、自らたてた制作スケジュールに添って制作を行い、自主性を強化する。	2 前	30	2			○	○	○						
○		建築製図Ⅱ①-a	木造平屋建の図面トレースによって各図面を理解するとともに、建築的条件のもと、身近な住宅を自らプランニングしたものを、各図面で表現する。	2 前	30	2			○	○	○						
○		インテリアコーディネーター演習Ⅰ	資格取得・知識向上に関しては教科書と問題集を中心に学習する。展示場やショールームの見学をしたり、実際のエレメントを使用してプレゼンテーション・スペースデザインの技術も身につける。また、インテリアをデザインする上でクライアントの関わり方や社会人としてのマナーなども学習する。(インテリアコーディネーションコンペへの参加予定)	2 前	30	2			○	○	○						
○		3DCG演習Ⅰ	3DCGソフトの使い方をマスターする。	2 前	45	3			○	○	○						
○		ライフデザイン③	クラス内で行事に取り組む。	2 前	30	1			○	○	○						
○		ゼミⅠ	今まで学習してきたことをベースに、アイデアスケッチ・図面・モデル・プレゼンテーションといった開発プロセスにそって、スケジュールを立て、オリジナリティーのある作品を制作する。	2 前	45	3			○	○	○						
○		家具演習Ⅰ	自分で考案した家具を、模型制作→作図→積算→材料手配→制作の順に計画的に制作します。手加工が前提ですが、場合によっては機械も使用します。	2 前	45	3			○	○	○						

○		進級制作Ⅱ②	進級制作の作品づくりに必要な設計図書の作成を行い、揃った内容を作品として完成するまでを行う。	2後	30	1				○	○		○	○
○		建築製図Ⅱ② -a	木造2階建の図面トレースによって平屋建にはなかった、上・下階の空間的なつながり（階段の取り方）を理解するとともに、建築的条件のもと、身近な住宅を自らプランニングしたものを、各図面で表現する。	2前	30	2			○		○		○	
○		建築法規	建築物の災害から国民の生命、健康、財産などを保護するために建築の最低基準を中心に、建築士法・建築業法の関連法令を学ぶ。	2後	30	2		○			○		○	
○		都市計画	都市の成り立ちや機能を考え、その都市で暮らす人にとって有効な建造物を計画することを学ぶ。	2後	30	2			○			○		○
○		建築施工	各種建築物の施工計画の建て方から各工事の施工手順など一連の流れを把握するとともに、各工事における基本的・基礎的な工法ならびに施工用語等について学習する。	2前	60	2				○	○		○	
	○	CAD I	CADソフトを利用したの立体図や建築図面の作図法を身につける。	2前	30	2			○			○		○
○		建築計画a	建築物を取り巻く自然環境と都市環境に関する基本的要素と其中で快適な室内環境を作り出すために必要な方法など建築的な事項を学習する。	2後	15	1		○			○		○	

		○	建築計画b	建築種別・施設別に施設計画各論を進めるにあたり、立地計画、配置計画、各機能の計画、構造計画、設備計画などに関する建築計画の基礎的な事項を学習する。特に高齢者や身体障害者等に配慮した建築物の各部寸法も基本的事項を把握する。	2 後	15	1	○			○		○		
		○	一般構造②	一般構造は、木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄筋構造等の構造別ごとに学習し、その特性、仕上げ、造作等の全般について学習し、建築全般の基本的なことを習得する。後半は、前半に続き、鉄筋構造、補強コンクリート構造、その他の構造等の特性原理及びその工法と仕上げ、造作等の全般について習得する。	2 後	60	2				○	○		○	
		○	スペースデザイン演習Ⅱ	2年次のまとめである進級制作を最後のプレゼンテーションを含めて考えて制作する。	2 後	45	3				○	○			○
		○	インテリアコーディネーター演習Ⅱ	資格取得・知識向上に関しては教科書と問題集を中心に学習する。展示場やショールームの見学をしたり、実際のエレメントを使用してプレゼンテーション・スペースデザインの技術も身につける。また、インテリアをデザインする上でクライアントの関わり方や社会人としてのマナーなども学習する。(インテリアコーディネーションコンペへの参加予定)	2 後	30	2				○	○			○
		○	CADⅡ	スペースデザインコースの学生は、木造からRC造の図面が描けるようになる。レイヤー・線の太さなど図面での表現も増やす。家具コース、ジュエリーコースの学生はCADで自分のつくるものの図面を正確に描くことができるようになる。CAD検定にも対応。	3 前	30	2				○	○			○
		○	プレゼンテーションⅡ	進級制作・卒業制作のプレゼンテーションの中で、模型制作に絞り込んだ制作を行う。	2 後	45	3				○	○			○
		○	プロダクト販売Ⅰ	展示会に必要な販売促進グッズなど作品を向上させるアイテムを制作する。チームごとの取り組みで、計画性、協調性を養い、自分たちが制作した作品がより良く感じられるようなディスプレイを経験する。また、会計資料を作成することで資金面での流れや取り組みの重要性を経験する。販売でのマナーを学ぶ。	2 後	45	3				○	○			○

		○	プロダクト展示Ⅰ	販売企画と連動し、ディスプレイの制作をする。展示効果を考えた設計をする。搬出入を予想し、組み立てや分解・運搬の容易なディスプレイを制作する。	2 後	30	2			○	○							○	
		○	家具演習Ⅱ	本講座は後期の始めから10回実施する。成形合板の技術を用いて、製品をデザインする。一つの型を用いて定められた材料をどのようにして価値あるものにするか挑戦してみる。	2 後	15	1			○	○								○
		○	雑貨演習Ⅱ	進級や卒業制作を意識し市場に出回っている商品のレプリカを制作することで、技法や制作プロセスについて学習する。	2 後	15	1			○	○								○
		○	ジュエリー演習Ⅱ	手吹き・遠心鑄造・真空吸引鑄造・高周波真空加圧鑄造etc、ロスト・ワックス・キャストイングの原理から量産の方法までを理解し、実際に圧迫を使用した手吹き法で原型作り→埋没→乾燥→脱蠟→鑄込み→仕上げまですべて通して個人で行うことにより完全にマスターし、作品作りの幅を広げ、今後活かせるようにする。	2 後	15	1			○	○								○
		○	進級制作Ⅱ③	進級制作展での作品をより魅力的に見せるための計画、準備をする。	2 後	30	1				○	○							○
		○	進級制作Ⅱ④	進級制作の作品を制作する。	2 後	30	1				○	○							○
		○	ゼミⅡ	モノをデザインすることは、機能や機構、イメージを形にし、人間の生活をより豊かで快適にする活動である。ここでは、身の回りの造形や人間の行為に着目し、機能を持つアイテムのデザインにどのように昇華させるかを、実習を通して学ぶ。	2 後	45	3			○	○								○

		○ ライフデザイン④	クラス内で行事に取り組む。	2 後	30	1				○	○	○		
		○ 夏期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	3 前	60	2				○	○		○	
		○ 冬期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	3 後	30	1				○	○		○	
		○ SHR	学校生活における必要な連絡事項などをクラスごとに告知をする。	3	60	2				○	○		○	
		○ 校外特別講座	アジア最大のアートイベントと言われる「デザインフェスタ vol. 44」に参加し、全国のクリエイターと触れ合いながら接客方法等販売について経験します。	3 後	30	1				○		○	○	
		○ 海外研修	イギリス、フランスを約2週間かけて、旅行をする。オプションでイタリアまで行く。各自グループになり、スケジュールは全て学生が決めて自分達で行動する。 参加者は海外デザイン研究を履修し、事前にリサーチ、スケジュール作成などをして、研修後には報告会を実施する。	3 前	98	1				○		○	○	
		○ ライフデザイン⑤	クラス内で行事に取り組む。	3 前	30	1				○	○		○	

		○	ゼミⅢ	全国規模の建築・インテリア関連のコンペティションへ参加します。「どのコンペに参加するのか」「プレゼンテーションに必要な材料は何が最善なのか」「作品を仕上げるには、どんなスケジュールを組めばよいのか」など、デザイナーにとって大切な「判断していく力」を、コンペティションに応募することで実践的に体得する。 今まで学習してきたことをベースに、アイデアスケッチ・図面・モデル・プレゼンテーションといった開発プロセスにそって、スケジュールを立て、オリジナリティーのある作品を制作する。	3前	45	3			○	○	○		
○			コンセプトメイキングⅡ	卒業制作の本制作に向けたコンセプトメイキング(テーマ設定→骨子作成→コンセプトの文章化)を行い、計画内容の企画を立てる。また、他コースの学生との意見交換を通じて、様々なコンセプトメイキングの概念を学ぶ。後半は、自ら立てた制作スケジュールに沿って、中間報告会に向けての実践的な制作(プレゼンテーション準備)を行い自主性を強化する。	3前	30	2			○	○	○		
		○	スペースデザイン演習Ⅲ	木造住宅を題材に、伏図・軸組図を理解し、木造建築物がどのような部材・寸法で構成されているのかを修得する。知識だけの修得にとどまらず、建築模型制作材料であるスプレッド・バルサなどの基礎的な素材を使用し、スケールをもった模型というかたちではあるが、自ら建築物を組み上げるとい実践を通して体得する。	3前	45	3			○	○	○		
		○	インテリアコーディネーター演習Ⅲ	資格取得・知識向上に関しては教科書と問題集を中心に学習する。展示場やショールームの見学をしたり、実際のエレメントを使用してプレゼンテーション・スペースデザインの技術も身につける。また、インテリアをデザインする上でクライアントの関わり方や社会人としてのマナーなども学習する。(インテリアコーディネーションコンペへの参加予定)	3前	30	2			○	○		○	
		○	3DCG演習Ⅱ	3DCGソフトの使い方をマスターする。	3前	45	3			○	○	○		
		○	パースペクティブ①	2年次に習得した1点パースを確実なものにし、色彩で色付けを習得する。木や石など建築で使うものを色で正確に表現できるようにする。	2後	30	2			○	○		○	

		○	トラベル英会話	毎回海外での状況を設定し、情状況に応じた簡単な英会話や注意事項、楽しむポイントなどを学習する。	3前	15	1	○			○						○	
		○	ライフデザイン⑥	クラス内で行事に取り組む。	3後	30	1				○	○					○	
		○	ゼミⅣ	岡山建築設計クラブ主催の、第20回ワンデーエクササイズに参加します。チームでひとつの作品を制作することで「協調性」「積極性」を実践的に体得する。また、参加（プレゼンテーション）するための成果物として、①5分程度の発表用原稿②プレゼンテーションパル（A1サイズ）③模型（A1サイズ程度）※ゼミⅢと連動 モノをデザインすることは、機能や機構、イメージを形にし、人間の生活をより豊かで快適にする活動である。ここでは、身の回りの造形や人間の行為に着目し、機能を持つアイテムのデザインにどのように昇華させるかを、実習を通して学ぶ。	3後	45	3				○	○						○
		○	卒業制作①	専門分野における大作として、コンセプトメイキング・探究心を重視して、長期計画に沿った制作ができるようになる。	3後	30	1				○	○						○
		○	卒業制作②	卒業制作の作品を制作する。	3後	30	1				○	○						○
		○	卒業制作③	卒業制作展での作品をより魅力的に見せるための計画、準備をする。	3後	30	1				○	○						○

○		卒業制作④	卒業制作の作品を制作する。	3 後	30	1					○	○					○
	○	スペースデザイン演習Ⅳ	前半部分ではグループ制作によるワンデー・エキサイズを中心に製作を行う。後半では3年間の個人での総決算である卒業制作の製作を行う。合評会のあとよりよい作品展示に向けての手直しをしていく。	3 後	45	3					○	○					○
		○ パースペクティブ②	図面では伝えきれないものをパースで表現できるようになる。自分なりに手描きでラフスケッチを描くことができるようになる。今後の表現方法の一つとして三面図・パース・着彩等を身につけることができる。	3 後	30	2					○	○					○
		○ 店舗設計	店舗デザインの基本を楽しく学び、各自のテーマでプレゼンテーションできるようにクリエイターとしての感性をのばす。また、学んだ知識をさらに深め、店舗空間が表現できるだけの能力を学習する。	3 後	30	2					○	○					○
		○ インテリアコーディネーター演習Ⅳ	資格取得・知識向上に関しては教科書と問題集を中心に学習する。展示場やショールームの見学をしたり、実際のエレメントを使用してプレゼンテーション・スペースデザインの技術も身につける。また、インテリアをデザインする上でクライアントの関わり方や社会人としてのマナーなども学習する。(インテリアコーディネーションコンペへの参加予定)	3 後	30	2					○	○					○
		○ プロダクト販売Ⅱ	展示会に必要な販売促進グッズなど作品を向上させるアイテムを制作する。チームごとの取り組みで、計画性、協調性を養い、自分たちが制作した作品がより良く感じられるようなディスプレイを経験する。また、会計資料を作成することで資金面での流れや取り組みの重要性を経験する。販売でのマナーを学ぶ。	3 後	45	3					○	○					○
		○ プロダクト展示Ⅱ	販売企画と連動し、ディスプレイの制作をする。展示効果を考えた設計をする。搬出入を予想し、組み立てや分解・運搬の容易ディスプレイを制作する。	3 後	30	2					○	○					○

		○	インテリア・建築デザインテーマ研究a	県内のコンペにチームで参加する過程で建築に関する総合的な力を身につけ、チームでプロジェクトに向けて話し合うことも経験する。	3 後	30	2				○	○	○					
		○	家具演習Ⅳ	今まで習得した知識、技能を更に発展させ、自ら設定した目標に向かって制作活動をおこなう。教員に報告、確認をしながら進める事も重要になる。	3 後	15	1				○	○	○					
		○	雑貨演習Ⅳ	進級や卒業制作を意識し市場に出回っている商品のレプリカを制作することで、技法や制作プロセスについて学習する。	3 後	15	1				○	○						○
		○	ジュエリー演習Ⅳ	1～3年でやってきたことの集大成。各々進むべく道に沿った作品を時間をかけ計画的に制作。時間的に学べなかったが是非在学中に習得したい技術・深く追求したい技術などを指導。プロとしての心構え、商知識の徹底。	3 後	15	1				○	○						○
		○	プレゼンテーションⅢ	イラストレーター・フォトショップの使用方法→デジカメで作品撮影後、PCに取り込んで画像補正→入稿データの作成、までをできるようになる。進級制作/卒業制作のボードも並行して制作する。	3 後	45	3				○	○						○
合計						107科目			3623単位時間(196単位)						
卒業要件及び履修方法									授業期間等									
進級・卒業には年間35単位以上及び当該年次における全必修科目の取得を要する。また、卒業には総計105単位以上の取得を要する。									1学年の学期区分			前期・後期						
									1学期の授業期間			15週						

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。